

大田区自然観察路「縄文のみち」の生物・植物についての
区民協働調査

報告書

平成27年3月

大田区

〈 報告内容 〉

1. 調査実施概要

- 1. 1 調査名称
- 1. 2 調査目的
- 1. 3 調査地域
- 1. 4 調査項目
- 1. 5 調査期間
- 1. 6 調査方法
- 1. 7 調査員

2. 調査結果

- 2. 1 「縄文のみち」と調査コースについて
- 2. 2 調査コース概要
- 2. 3 本調査 植物・樹木調査
- 2. 4 本調査 生物調査 <野鳥>
- 2. 5 本調査 生物調査 <昆虫、その他>
- 2. 6 本調査 生物調査 <哺乳類、爬虫類、その他>
- 2. 7 協働調査 <セミのぬけがら、コオロギ>
- 2. 8 自然観察プログラム検証実験 <トラップによる捕獲観察>

1. 調査実施概要

1. 1 調査名称

大田区自然観察路「縄文のみち」の生物・植物についての区民協働調査

1. 2 調査目的

大田区では平成12年、13年に「おおた環境調査2000」で区民と協働で環境調査を行っているが、すでに月日が経過しており、生物・植物を取り巻く環境は日々刻々と変化している。生物・植物の生息状況も変化していることが予想され、生息する生物種のみならず、生物相全体を把握する必要性が生じている。

自然観察路「縄文のみち」は、区内で最も広い面積にわたり常緑樹林が残されているコースであり、特色のある調査結果が期待できる。自然観察路を中心とした生物相の状況を把握し、区民等が自然観察を行う際の資料として提供するだけでなく、今後区民と協働して行う自然環境及び環境保全施策の基礎として利用できるようにする。

そして、過去に行った調査結果と比較して生物相の変化状況を把握し、環境の変化を推察する資料とし、併せて当該観察路の外来生物の実態を把握し、今後の予測及び対策の必要性についての検討資料とする。

また、調査にあたって区民から参加者を募集する協働調査も実施し、区民の環境への関心を高め、生物多様性の理解促進を図る。

1. 3 調査地域

大田区自然観察路「縄文のみち」

池上本門寺公園、池上本門寺社林、池上梅園等をめぐる1.6kmのコース及びその周辺地域

1. 4 調査項目

- (1) 植物
- (2) 昆虫類
- (3) 鳥類
- (4) 哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類

1. 5 調査期間

2014年4月1日～2015年3月20日の期間内に本調査および区民参加による協働調査を実施

1. 6 調査方法

本調査

調査地域内で確認された個体について数、種類を記録する。ただし、識別不能な個体については可能な範囲で記録をとる。

確認した生物、植物および調査場所の環境をデジタルカメラで写真撮影し記録する。

自然観察路内の案内板、解説板の現状を確認、記録し、現在の環境に即した案内板、解説板の検討を行う。

協働調査

調査内容、方法について検討し、参加する区民に対して調査方法、識別方法の説明を行い、本調査に準じた区民参加の調査を行う。

1. 7 調査員

専門調査員 4名

川沢祥三

増田直也

鈴木百合子

小野紀之

区民参加調査員

8月 3日 観察会参加者 35名

8月17日 区民 20名

9月21日 区民 11名

10月18日 区民 8名

10月31日 池上小学校アウトドアクラブ 30名

2. 調査結果

本調査は、大きく分けて植物・樹木、野鳥、昆虫その他について行った。野鳥は専門の調査員によって6回、植物・樹木は5回実施した。昆虫その他については、それぞれの専門調査の際に確認できたものについて記録した。

協働調査は、一般区民の参加によるため、本調査の調査地域の中から本門寺公園を調査地域とした。調査対象については、セミ、コオロギとし、区民参加で季節変化による出現種類の調査を定点で継続して行った。

また、昆虫調査を兼ねた生物観察プログラムの検証実験として、地表に設置した簡単なトラップによる生物の採集観察調査を行った。

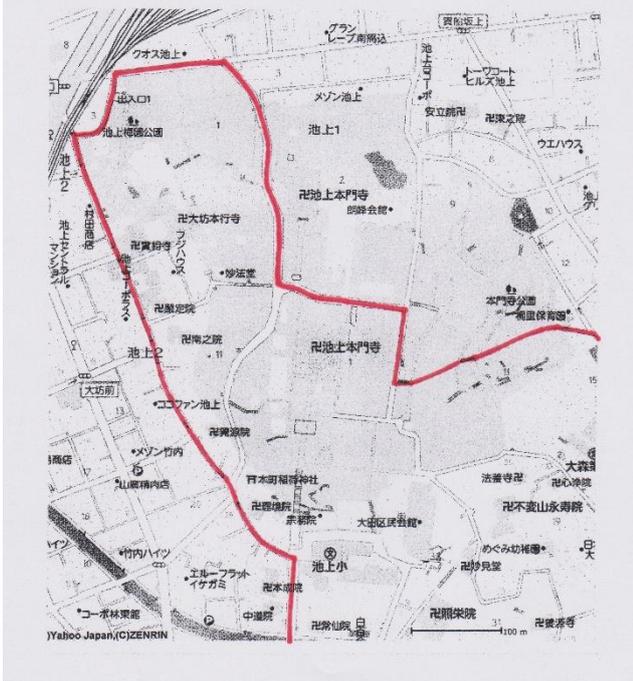
2. 1 「縄文のみち」と調査コースについて

大田区では1987（昭和62）年発行パンフレットで大田区内に5ルートの自然観察路の紹介を行っている。その一つである「縄文のみち」は、本門寺公園、本門寺社寺林、池上梅園をめぐるコースは区内で最も広い面積にわたって常緑樹林が残されている。しかし、現在ではコースの一部が自動車道路に接しているなど観察路として適しているとは言い難い箇所がある。生物の生息環境として今後どのように保全、整備を行っていくのかを検討する資料として、コース全体を踏査調査した。



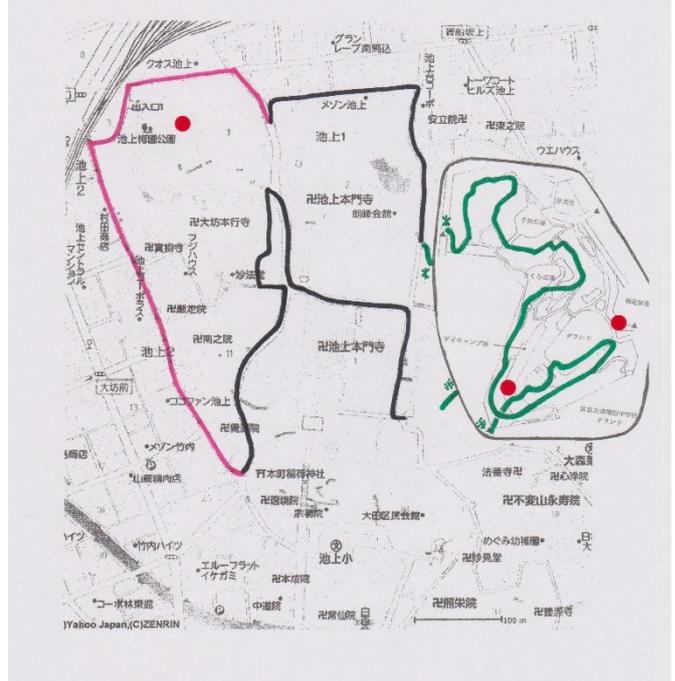
「大田区の自然観察路」 平成7年3月発行パンフレットより

「池上・縄文のみち」



「縄文のみち」

「池上・縄文のみち」区民協働調査マップ



今回の調査コース

2. 2 調査コース概要

今回の調査では、「縄文のみち」コースをその特徴から大きく3つのエリアに分けた。

本門寺公園

縄文のみちの中で、最も自然観察に適したエリアで、常緑樹林のなかにも20種類以上の樹木がみられる。調査は主に南側、グラウンドを取り囲むように広がる樹林内の遊歩道。それとほぼ中央に位置する桜広場から子供広場西側斜面の遊歩道から北川丘陵地を経て、池上本門寺朗峰会館前の道路に抜けるコースで調査を行った。

夏は子どもたちが昆虫採集や観察、秋から冬にかけて野鳥観察、撮影をする大人の姿が目立つ公園内を一回りするコースとなった。

「池上・縄文のみち」区民協働調査マップ

本門寺公園





池上本門寺

縄文のみちでは、池上本門寺の大堂と寺務所の間を通る紅葉坂を東から西に抜け、車坂を馬込方面に向かうコースのみとなっている。しかし今回の調査では、同コースに加え、本門寺松濤園周囲を反時計回りに住宅地を抜けるコースと多宝塔周辺、車坂のほぼ全体、紅葉坂から五重塔に至る道を調査コースとして設定した。



沿道

縄文のみちで設定された観察路とほぼ同じコース。車坂を北に下り、自動車通行の多い坂道をさらに国道2号線に向かって下る。そこから池上梅園前を通り、池上の丘陵西側を回り込みながら本門寺正面に向かう住宅地のコース。坂道部分は自動車の通行が激しく、住宅地の道路は人のほかに自転車の通行も比較的多い道で調査にあたっては、交通事故への注意が必要なコースとなった。

2. 3 本調査 植物・樹木調査

今回の調査では縄文のみちを、樹林を中心とした本門寺公園エリアと本門寺周辺の建造物および道路に隣接した丘陵傾斜地を中心とする本門寺・沿道エリアに生育する樹木について調査集計を行った。

大田区自然観察路「縄文のみち」の代表的な樹木



ケヤキ

コナラ



イヌシデ

スダジイ



左からコナラ、スダジイ、シラカシ、ケヤキの
葉とどんぐり、種子

2014年度「池上・縄文のみち」区民協働調査 <樹木（植物）>

NO.	種 名	調査地別確認数		特記事項
		本門寺公園	本門寺、沿道	
1	アカガシ	9		
2	アカマツ	1		
3	イイギリ	6		落葉はじまる(10月)
4	イチヨウ	9	5	
5	イヌシデ	23		
6	イヌビワ		1	
7	イロハモミジ	2		
8	ウメ			池上梅園
9	エノキ	8	5	
10	カキ	4		結実、野鳥が採食
11	カヤ		1	多宝塔後ろ階段上
12	クサギ		2	
13	クスノキ	3	1	
14	クスギ	1		
15	クリ		1	
16	クロマツ	6		
17	ケヤキ	23	6	実が風で落下(10月)
18	コクサギ	3		実がはじける(10月)
19	コナラ	20		ドングリ落下(10月)
20	コブシ	1		
21	サクラ	20	15	高木に囲まれ弱っている木あり
22	サルスベリ		1	開花(7月)
23	サンゴジュ	2		
24	シュロ	5		周辺に幼木あり
25	シラカシ	6	2	
26	スダジイ	22	24	ドングリ落下(10月)
27	タケ	40		園芸種?
28	トウカエデ	3		
29	トチノキ	5		池そばに親木
30	ハゼノキ		1	
31	ミズキ	9		
32	ムクノキ	9	6	
33	メタセコイヤ(アケボノスギ)	5		
34	ヤマモモ		2	落実あり(6月)
35	カタバミ	* 1		* 1:公園内
36	タチツボスミレ	5		公園入口、石垣の間(6月)
37	ツツジ	* 1	* 2	
38	ナツミカン		* 2	* 2:沿道、私有地内
39	ハルジオン	* 1		
40	ポピー	* 1		
41	マーガレット		* 2	
	種類数	樹木 26種類	樹木 15種類	

「縄文のみち」はその名の通り、縄文時代からの植生を残す常緑樹林が残る地域で、その面積は大田区内でも最も広いものである。

本門寺公園には、スダジイのうっそうとした林があり、ほかにケヤキやイヌシデ、コナラ、アカガシ、エノキなど多様な樹木が生育している。その一方でサクラが周囲を囲む広場などもあり、春のお花見や秋の子どもたちのどんぐり拾いなど多くの区民に利用されている。また、カキなど実のなる樹木もあるため、野鳥も多い。特に春秋の渡りの季節には都会では珍しい野鳥も観察されるため、多くのカメラマンも訪れている。これらはすべてこの公園の樹木が多様性に富んだものであり、暗い林の一面と季節の変化とともに落葉によって明るくなる樹種があることに起因している。今回の調査では、樹木26種が記録された。なお、アオキ、ネズミモチなどの常緑低木については、今回の調査には含まれていない。シュロも同様の樹種ではあるが、野鳥によって種が運ばれたと思われる苗が確認されたため、調査員が記録している。

池上本門寺周辺には、やはりスダジイを中心とする社寺林が広がり、参道にはサクラが数多く植えられている。また、大きなケヤキも目立つ。ほかにカヤ、クロマツ、イチヨウなど樹林としてではないが、かなり大きな木や小さいながらも少数しか生育していない樹木もある。

沿道は、そのほとんどが民家の周囲や庭に植えられた樹木であり大きな樹木はなく、また園芸種が多いのが特徴になっている。もちろん、実がなる木も多く、野鳥などが生息する一因になっているが、樹林としての広がりがないため、繁殖などを期待することはできない。本門寺・沿道エリアでは今回15種類の樹木が記録されている。

全体がうっそうとした林であるため、遊歩道、道路からの観察調査ではあまり目立った植物はなく、本門寺周辺、沿道では園芸種の植え込みやその種子の拡散によると思われる花などが道路周辺で見られた。

調査員からの報告

- ・10月、親子、保育園児のどんぐり拾いの光景がみられ、子どもたちも得意顔で楽しんでいた。
- ・池上本門寺霊宝殿前の説明板に明治時代中期の本門寺正面の写真が掲示されていて、その写真から当時、丈の高い松が台地の正面に群生していたことがわかる。
- ・現在の台地の端には植樹されたと思われるスダジイが多くみられ、土止め、防風の役目が求められたことがうかがわれる。この深い緑が人に安らぎを与えてくれるとともに、野鳥にえさ、ねぐらなどを与えているものと考えられる。

2. 4 本調査 生物調査 <野鳥>

今回、専門家2名による6月、9月、11月、12月、2月の5回の調査に加え、ほかの調査時に観察された野鳥の記録をまとめた。また、秋の調査時期には、本門寺公園の調査地域内で野鳥撮影を行っているカメラマンから寄せられた情報で、その姿が写真等で確認できた野鳥については参考記録としてその野鳥を記録に残した。

大田区自然観察路「縄文のみち」で観察された野鳥



キジバト



ムクドリ



ハシブトガラス 親子



コゲラ



エナガ



ツツドリ

2014年度「池上・縄文のみち」区民協働調査 <野鳥>

NO.	種名	調査日別確認数							特記事項	
		5月17日	6月14日	7月19日	9月14日	9月28日	11月22日	12月23日		2月11日
1	カワウ						1	1		
2	アオサギ						1			
3	キジバト		3		3		1	4	8	
4	ツツドリ				1					
5	コゲラ	1	6		1		2	2		
6	ツバメ	1	3							
7	ハクセキレイ			1				4	1	
8	ヒヨドリ	7	13	5	1		108	25	19	
9	ジョウビタキ						2	1	1	
10	シロハラ						1	3	3	
11	ツグミ						1	8		
12	ウグイス						3	1	1	
13	オオルリ				*1					*1: 調査時、調査地にいたカメラマンなどからの目撃情報
14	エゾビタキ				*1					*1: 調査時、調査地にいたカメラマンなどからの目撃情報
15	コサメビタキ				*1					*1: 調査時、調査地にいたカメラマンなどからの目撃情報
16	サンコウチョウ				*1					*1: 調査時、調査地にいたカメラマンなどからの目撃情報
17	エナガ						5	10	*1	*1: 調査時、調査地にいたカメラマンなどからの目撃情報
18	シジュウカラ	3	27		18		8	15	11	
19	メジロ	1	3		3		23	41	12	
20	アオジ						3	3	3	
21	カワラヒワ		1				5	9	4	
22	シメ							2	3	
23	スズメ	11	62	20	15		7	29	29	
24	ムクドリ	3	41	11	3			36		
25	オナガ					1				植物調査時
26	ハシボソガラス				1					
27	ハシブトガラス	9	28	*2 14	26		6	14	14	*2: 親子
28	ワカケホンセイインコ		1		27		3		9	
29	ドバト		19	2	15		4	50	7	
	種類数	8	12	6	16	1	18	19	16	

今回の調査では、ドバト、スズメ、ハシブトガラスなど典型的な都会の野鳥が調査期間を通じて、調査地域全体で観察された一方で、やはり本門寺公園があることでシジュウカラ、メジロ、ヒヨドリ、ムクドリ、コゲラなどもよく観察された。また、秋の渡りの時期から冬にかけて、ツツドリ、シロハラ、ツグミ、アオジ、シメなどほかの季節に比べて多くの種類が観察された。

調査員からの報告

- ・ 7月の調査時、巣立ち後の若鳥2羽にえさを与えているハシブトガラスの親子が観察された。
- ・ 秋の渡りの時期で本門寺公園にカメラマンが多く、コサメビタキ、エゾビタキ、サンコウチョウ、オオルリがいるとの報告。ツツドリは調査では1羽しか確認できなかったが、3羽いるとの情報だった（9月21日の区民協働調査の際は、本門寺公園桜広場で赤色型のツツドリ1羽を参加者全員で観察することができた）。
- ・ 9月14日の調査で確認したワカケホンセイインコの群れは、数が多かった。
- ・ 秋から冬、渡りの終盤の季節でヒヨドリが多いほか、ツグミ等の冬鳥がみられた。針葉樹が多いが、サクラなどの落葉樹もあり、変化に富み、鳥相を豊かにしている。
- ・ 冬、シジュウカラ、メジロが多く、メジロはサザンカの花蜜を吸っている姿が多く見られた。
- ・ エナガが都市に進出していることがすでには知られているが、本門寺公園でも群れで見られた。実数はカウント数より多いと考えられ、繁殖の可能性が考えられる。
- ・ 2月の調査時、本門寺公園で猛禽類に襲われたと考えられるドバトの痕跡が確認された。また、ワカケホンセイインコの繁殖期の鳴き声が聞かれ、生き物の世界ではすでに春に近いことを感じられた。

2. 5 本調査 生物調査 <昆虫、その他>

今回の調査は、区民が身近に感じ、観察できる生物、植物を主な対象として実施した。そのため、植物は常時、中長期的に観察できる樹木を中心に行った。昆虫類についても同様に、茂みの中に入り込んだり、落葉表面を掘り起こしたりするようなことは極力避け、野鳥、樹木（植物）調査のように調査コースを歩きながら観察された昆虫類、を記録する方法で行った。また、後述する自然観察プログラムの検証実験として行われた2種類のトラップで捕獲観察された昆虫類、土壌動物類についてもこの結果に含めた。

大田区自然観察路「縄文のみち」で観察された昆虫類



カラスアゲハ



ヒメジャノメ



イチモンジセセリ



ヨコヅナサシガメ



ミンミンゼミ（中央）、カブトムシ頭部（右）

2014年度「池上・縄文のみち」区民協働調査 <昆虫、その他>

NO.	種名	確認場所			特記事項
		本門寺公園	本門寺	沿道	
1	アゲハ(ナミアゲハ)	○	○	○	成虫、幼虫確認
2	アオスジアゲハ		○	○	
3	カラスアゲハ	○	○		
4	タテハチョウの仲間		○		
5	ヒメジャノメ	○			トラップ
6	ウラジャノメ	○			トラップ
7	ジャノメチョウ		○		
8	イチモンジセセリ	○			
9	ツツレサセコオロギ	○			
10	ハラオカメコオロギ	○			
11	アオマツムシ		○		
12	ニイニイゼミ	○	○	○	
13	ミンミンゼミ	○	○		
14	アブラゼミ	○	○		
15	ツクツクボウシ	○			
16	ヒグラシ	○			
17	クマゼミ	○			
18	ヨコヅナサシガメ		○		植物調査時
19	シロヘリカメムシ	○			トラップ捕獲
20	ツチカメムシ	○			トラップ捕獲
21	コシアキトンボ		○		
22	アカネトンボの仲間	○		○	上空
23	シデムシの仲間	○			トラップ捕獲
24	カブトムシ	○			♂頭部のみの死骸2匹確認、♀1匹捕獲
25	カナブン	○			トラップ
26	アオカナブン	○			トラップ
27	コアオハナムグリ	○			トラップ
28	シロテンハナムグリ	○			トラップ
29	キムネクマバチ(クマバチ)	○			死骸確認
30	トビズムカデ	○			トラップ捕獲
31	ヤスデの仲間	○			
32	オカダンゴムシ	○	○		トラップ捕獲
33	ミミズの仲間	○			

今回の調査コースに沿った調査では、チョウ、セミ、トンボの仲間が主に観察された。また、協働調査では主にセミのぬけがらとコオロギの調査を行い、木の根元付近や石の下などを探したため、その際にカブトムシ（♂の死骸、生きている♀）、コオロギ、ヤスデの仲間が観察された。そして、トラップ捕獲観察では、土中に埋めた魚肉ソーセージ入りカップからはカメムシの仲間やトビズムカデ、オカダンゴムシ、ミミズなどが観察された。木にぶらさげた焼酎づけバナナ入りネットにはジャノメチョウの仲間、カナブン、シロテンハナムグリなど甲虫類が主に観察された。

今回観察されたチョウ、トンボを除くほとんどの昆虫類は、本門寺公園で記録された。すでに植物、野鳥の調査結果で述べているように本門寺公園は、都市部の公園としてグラウンドやデイキャンプ場、遊具広場などを備えているわりにスダジイなどの常緑樹林が広がり、サクラ、ケヤキ、コナラなどの落葉樹も適度に混在していた。また、遊歩道の落葉も両側の樹木の周辺に戻されているため、腐葉土が豊かで土壤動物が生息しやすい環境になっていた。同様に甲虫類の幼虫の生息にも向いている。

これまでの本門寺公園、落葉堆積部分での土壤動物観察会では、オオミスジコウガイビル、クロイロコウガイビル（以上、コウガイビルの仲間）、ザトウムシの仲間、ワラジムシ、トビムシの仲間、ハサミムシなどが観察されていた。

2. 6 本調査 生物調査 <哺乳類、爬虫類、その他>

今回の哺乳類、爬虫類、両生類、陸産貝類の調査は、ほかの調査の際に目撃されたものを記録するにとどめた。

大田区自然観察路「縄文のみち」で観察された哺乳類、爬虫類



外灯に集まる虫を求めて飛び交う
アブラコウモリ



夏の早朝、本門寺公園に現れたアオダイショウ（全長約1.5メートル）

2014年度「池上・縄文のみち」区民協働調査 <哺乳類、爬虫類、その他>

NO.	種名	調査日別確認数						特記事項
		8月3日	8月4日	8月17日	9月21日	10月18日	10月31日	
	哺乳類							
1	アブラコウモリ	多数						調査地全体で飛行
2	イエネコ							本門寺墓地 目撃
3	タヌキ							未確認情報あり
4	ハクビシン							未確認情報あり
	爬虫類							
1	アオダイショウ	1						本門寺公園
	両生類							
1	今回確認なし							
	陸産貝類							
1	今回確認なし							
	種類数(哺乳類)	2						
	種類数(爬虫類)	1						

今回観察された哺乳類はアブラコウモリだけだった。アブラコウモリは唯一、洞窟ではなく、昼間、人家の軒や屋根裏などで生息する小型コウモリで別名イエコウモリとも呼ばれている。今回の記録は、8月の区民参加による協働調査の際に本門寺公園でバットディテクターを使用し、姿だけではなく、超音波で発せられている声を可聴音に変えて聞く活動の際のものである。

しかし、アブラコウモリは、これまでもこの公園に限らず周辺住宅街でも夕方から夜にかけて各地で観察されている。特に大田区では多摩川、呑川、内川などの河川上空や河川敷でよく見ることができる。

爬虫類は、アオダイショウが今回観察されたが、これまでに小学校の自然観察の授業で本門寺公園を訪れた際にトカゲ、カナヘビなどが観察されていた。また、両生類についても同様の授業でヒキガエルが観察されていた。陸産貝類としては土壌動物観察会でナミギセルが見つかっている。

2. 7 協働調査 <セミのぬけがら、コオロギ>

セミのぬけがら、コオロギ、この2種類の調査は、「おおた環境調査2000」とその後に行われた2011年セミのぬけがら、2013年コオロギを継承するもので、いずれも区民参加の形で実施されてきた。これまで大田区内全域の公園、社寺を対象に実施してきたため、1か所1回のみでの調査しかできなかったが、今回1か所（本門寺公園）をシーズン中、複数回調査することができた。

大田区自然観察路「縄文のみち」、本門寺公園で観察されたセミ、コオロギ



上左：ニイニイゼミ
 右上：ツクツクボウシ
 右下：羽化前のミンミンゼミ



ハラオカメコオロギ

2014年度「池上・縄文のみち」区民協働調査<セミのぬけがら、コオロギ>

NO.	種名	調査日別確認数					特記事項
		8月3日	8月17日	9月21日	10月18日	10月31日	
1	ニイニイゼミ	9	8				2000年調査 0個
							2011年調査 2個
2	ミンミンゼミ	48	112	2		2	2000年調査 163個
							2011年調査 132個
3	アブラゼミ	96	123	8	4	12	2000年調査 292個
							2011年調査 203個
4	ミンミン・アブラ不明	123	29	7			
5	ツクツクボウシ		8	4	1	1	2000年調査 1個
							2011年調査 1個
6	ヒグラシ		3				2000年調査 0個
							2011年調査 0個
7	ツクツク・ヒグラシ不明	1	4	2			
8	クマゼミ		1				2000年調査 0個
							2011年調査 0個
9	エンマコオロギ						
10	ツツレサセコオロギ		1		2	2	
11	ミツカドコオロギ						
12	ハラオカメコオロギ			1		5	
	種類数(セミ)	4	6	3	3	3	
	種類数(コオロギ)		1		1	2	

今回、8月から10月にかけて5回行ったセミのぬけがら調査では、毎回ぬけがらの確認ができた。回収されたぬけがらの数はそれぞれ277個（8月3日）、288個（8月17日）、23個（9月21日）、5個（10月18日）、15個（10月31日）であった。このままではセミの出現種類の変化が比較しづらいので、調査日ごとのセミの種類の出現率をだしてみた（ミンミンゼミとアブラゼミ、ツクツクボウシとヒグラシは識別不能の個体があったので、それぞれの種類のぬけがら回収率での案分をした）。

	8月3日	8月17日	9月21日	10月18日	10月31日
ニイニイゼミ	3.2%	2.8%			
ミンミンゼミ	32.5%	43.8%	13.0%		13.3%
アブラゼミ	63.9%	47.9%	60.9%	80%	80%
ツクツクボウシ	0.4%	3.8%	26.1%	20%	6.7%
ヒグラシ		1.4%			
クマゼミ		0.3%			

上の表から、ニイニイゼミは夏早々に出現し、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシは夏から秋の長期にわたって観察できることがわかった。また、一般に夏の終わりごろに出現すると思われていたヒグラシがすでに夏の盛りに出現していることもわかった。さらにミンミンゼミ、アブラゼミの出現率を2000年夏、2011年夏の調査結果と併せて検討してみると本門寺公園ではアブラゼミがミンミンゼミに比べて多く生息していることがわかった（2000年調査 アブラゼミ60%、ミンミンゼミ39% 2011年調査 アブラゼミ64%、ミンミンゼミ35.7%）。

コオロギについては今回、ツツレサセコオロギ、ハラオカメコオロギの2種類が9月以降に確認された。大田区では8月を過ぎると夕方、コオロギの鳴き声が聴かれるのだが、今回の調査時間が午前から昼時にかけての時間だったため、ほとんど確認できなかった。2013年10月の調査では、この2種に加えてミツカドコオロギが確認された。エンマコオロギはその時も確認されなかった。

過去の調査

2000（平成12）年実施「身近な生き物調査」

2011（平成23）年実施「環境学習のための区民協働調査ーセミナー」

2013（平成25）年実施「大田区内に生息する身近な生物についての区民協働調査ーコオロギー」

2. 8 自然観察プログラム検証実験 <トラップによる捕獲観察>

この検証実験は、コースを歩きながらの調査で確認しづらい地表付近、落葉の中などに生息する昆虫類、土壌動物を比較的簡単な方法で集め、観察する方法を検証するために行った。この方法は、自然観察会や小学校の自然体験授業などの際にプラスチックコップ、水切りネットなどどこの家にもある家庭用品を使って、生き物を集め、観察することができる。

トラップの設置



本門寺公園内5か所にプラスチックカップを土中に埋めたトラップと水切りネットのトラップをセットにして設置。設置場所にはこのトラップの設置目的、設置期間、設置者を明示したプレートをいっしょに掲示した。トラップは翌朝、回収した。



カップ内面に食用油を塗り、中には魚肉ソーセージが入れている。



ネットの中には一晩焼酎に漬けたバナナが入れている。

プラスチックコップのトラップには、主に肉食、雑食性のトビズムカデ、シロヘリサシガメ、ツチカメムシ、ヤスデ、アリなどが集まっていた。また、木にぶらさげておいたバナナのに入った水切りネットには、カナブン、ハナムグリなどの甲虫やウラジヤノメ、ヒメジャノメなどのチョウが集まっていた。



大田区自然観察路「縄文のみち」の生物・植物についての区民協働調査
報告書

平成26年年3月

大田区環境清掃部環境保全課

〒144-8621 東京都大田区蒲田5-13-14

請負者 一般社団法人 地域パートナーシップ支援センター

〒146-0093 東京都大田区矢口1-21-6
